

# Jules Dupré

ジュールデュプレ(1811~1889)



作品名 池 Létang

種類 格子パネル・油彩

サイズ 44.5×62cm

## 略 歴

1811 ナントの磁器工場を営む家庭に生まれる。  
絵付け職人として働きながら、画学校にも通う。

1831 サロンに風景画を6点出品。

1833 サロンで二等賞受賞。

1834~ イギリス旅行。同地の風景画家コンスタブルらの作品を目にする。  
同年、サロンに落選。バビルゾン派の画家と親交を結び、  
ピレネー山脈やランド地方などを頻りに旅行。

1840頃 フォンテーヌブローの森に訪れはじめる。  
しかし、モンモランシーの森、リラダン、ノルマンディでの制作が中心。

1847 保守的なサロンの審査に反抗し、独立サロンの開催を主唱する。

1849 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。  
友人にルイ・カバ、トロワイヨン、ミレー、ルソー、ホールユエなどがいるが  
当初ポールユエのロマン主義の影響を受け抒情的な風景画を描いて  
ドラクロワの関心をひいたといわれる。その後、荒天や夕暮れの空の下に、  
小川や池のほとりに配された鬱蒼とした大樹が劇的な表情を示している  
といったモチーフを好んで描いた。  
独自の風景画を確立し写実的な傾向を強めていった。

1855 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1870 レジオン・ド・ヌール勲章を受章。

1889 リラダンで死去。  
フランス バルビゾン派 七星の一人  
現在、彼の絵画はルーブル美術館、オルセー美術館、  
日本を含む各国の美術館に多数収蔵

※1857年 デュプレの友人ミレーのサロンに出品した作品「落ち穂拾い」を  
自分のコレクター、リラダンのバンデル氏に購入させた。  
当時、「落ち穂拾い」はサロンに出品しても買い手が付かなかった。  
※本作品は『バルビゾンの画家たち』（飯田昌平 著・美術出版社）No56掲載